

エソタ



今は空前の上方落語ブームだ。こう書くと、「おいおいどこがやねん? テレビで落語なんか笑点ぐらいしかやってへんやろ」という人もいるだろう。さらに「俺は落語をいっぺんも見た事ない」「大体、上方落語って何や? 落語は東京やろ」「仁鶴、枝雀みたいなすごい奴が今おらんがな」と言つ人も多いだろう。しかし、仁鶴や枝雀の時代よりも今の方が、有料入場者数(ライブに足を運ぶお客)の総数ははるかに多く、噺家の総数も史上最大である。その意味で空前の落語ブーム・上方落語ブームである。

それでも「テレビで全然取り上げられてへんがな。仁鶴

笑福亭 たま

■ 空前の上方落語ブーム!?

や枝雀みたいな上方落語のスターって今、おるの?」という人もいるが、それは「今のプロレスに、馬場や猪木みたいな選手がいらない」「相撲に若貴みたいなスターがいらない」と言うのと一緒だ。実際、相撲もプロレスもライブ入場者数で言えば昔に勝るとも劣らないぐらいのブームである。つまり、この手の「スター待望論」は世間のどこの分野でも聞くが、結局、時代遅れの話だ。

もっと言えば「落語界からスターが生まれる」のではなく、「スターが落語界にやって来る」時代だ。月亭方正さんや桂三度さんは、それぞれ山崎邦正、世界のナベアツとしてテレビで活躍していたが、落語の世界に入門して来

名古屋でも熱気感じて

た。これもブームの証拠だ。今は自分独自の趣味を持つ時代なので、どの業界も「国民的スター」を輩出しにくい状況だ。しかし逆に、ライブの顧客満足度が高い分野では、有料入場者数は着実に増えている。その表れとして、大阪独自の落語「上方落語が東京だけでなく、名古屋にも積極的に進出し始めている。

月十二日)

日新聞でコラムを書いているんだから、そろそろ信用してほしい(笑)。

今こそ、このブームに乗り遅れないように一度、上方落語に触れてほしい。二〇二〇年二月に上方落語協会が大須演芸場にやって来る。この機会をお見逃しなく!

(落語家「次回掲載は十二



上方落語まつりのチラシを持つ筆者

それもこの文章を読んで「おいおいどこがブームやねん」と思った読者が名前も知らない落語家の会が名古屋で満員だったりする。「ホンマか?」と思つかもしれないが、そもそも名もなき噺家の私が中